

原告団

遺族・CO裁判、災害責任
追及、特集号
第七十三号

無残な歩み

原告団レポート
CO患者——
堀田 武夫さん

障害等級七級のCO患者「堀田武夫さん」は昭和三年三月二十五日生まれたから、五十二歳だ。妻の京子さんが語るところによれば、「九つほどの病気を背負っている」とのこと。事実、果てしなく続く入退院のくり返し。現に今も、三井が大牟田市天領町一丁目に移管する天領病院に入院中の身である。

今年一年間、彼が歩いてきた跡を振り返ると、春をむくいて花咲く四月から入院生活がスタートする。その月三十日の深夜にわたったのだ。

あわてて医師の診察をせうと、これが糖尿だとか、即座に大牟田市天領病院へ。高血圧症も併発していたが、治療の結果症状ひとまずおさまり、二カ月余の入院のあと六月五日に退院。だが、ほっとする間もなく、今年一年間、彼が歩いてきた跡を振り返ると、春をむくいて花咲く四月から入院生活がスタートする。その月三十日の深夜にわたったのだ。



堀田さんは、炭労の仲間が闘う他のヤマにも支援にかけつけた。写真は筑豊に出かけたとき、炭婦協の人ひとと撮ったもの。だが、風貌の逞ましさはどうだ。

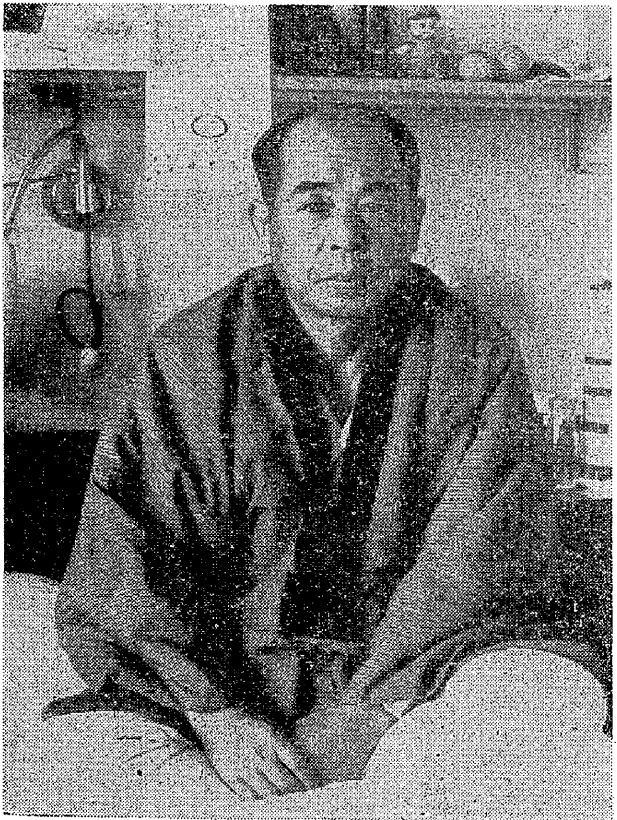
入院と退院のくり返し

九つほども重なった病気を背おつての歩み

一変した被災後の「人間」

た「天領病院に再入院。いつとそれ誕生する。今はい、三人ともよく配偶者たが、長女の晴美さんが生まれたのを機に坑内へ。掘進夫だった。

仕事は、初め坑外の鍛冶場だった。くるんでは、よく遊んでくれた。いたかつての日の姿が、今も京子さんの胸の奥に焼きついている。まこと、こんな堀田さんに頼り切って生きていた京子さんだったのに、それを、あの三池大爆発がいつかんに狂わしてしまっただけである。



今の堀田さん。天領病院のベッドのうえで。昔にかわる今日の姿が悲しい。退院はいつ？

こんなには玉名市伊倉の運河病院へ入院。腫瘍院を退院して、十日ほどたったその月十六日のことだった。冠不全、高血圧症、CO後遺症、心筋梗塞などが重なったうえに、アルコール中毒症にまで見舞われていたのである。悲しいことに、CO中毒症の苦しみから何とか解放されようとして、ついつい飲まれた酒が嵩じたものだった。さいわい入院後四月ほどたった十月二十日に、それでも同病院を退院することができたまでにごきつ、なつかしいわが家へ。妻の京子さんは安心した。

男の武則さんは早や子どもを三人若者だっただけあって、頭の切れ、長女の晴美さんが古風、次男の貞義さんが東京と、二人がとも分たったという。京子さんの実父を平野千代次さん(三十九年に享年六十歳で没)と比べ、長男の武則さんがすぐ家近く、市内の小浜町に住んでいるのが心強い。

彼の間は、予科練を志願したまでからくも続けられてきていた。労災補償を打ち切られる。同時に、その頃からを託していた大牟田労災病院からも放り出され、いや応なしに職場復帰への道へ追いやられる。以後、家での起居を余儀なくされる。と、彼はすてにかつての日の人間とはまるきり違っていた。そのからだのなかの血が何に向かってたどり立つのか、何かにつかず、手あたりしただけに物を投げつけるようになっていた。子どもたちとの間で、チャンネル争いがはじまる。前後の見境もなく、いきなりテレビをひっくり返した。飯台をひっくり返されたことなど、決してめすらしいことではない。

願いは一つ
京子さんは、日に一度は天領病院に入院中の夫のもとへ。近くに住む長男の武則さんも、かつては暴れる父親を相手に取っ組み合いを演じたものの、今は成長を遂げ、会えば「長生きせんなんのだから……」と、力つけてくれるのだ。

妻の京子さんは語る——
「こんな大災害は、ほんとに二度とくり返してほしくないです。悲劇は私たちがただでかんで。お父さんを、もとのからだにして返してほしかった。ほんに思っても、たまたまおれ金も積んでも、一度COにもなるとか……それより、買いたいものも買わないようにしてあげます。」とは京子さんの悲しい述懐である。

夫とさえて
この夫の命と家庭をまぎらしたために、妻の京子さんは三井塩業の仕事を手初めに何でもやっていた。鶏肉屋の肉解き、豆腐屋の家事手伝い、生命保険の勧誘、そして今は炭坑の焼きの店へ。

人間が一変
CO中毒患者になった彼が人間が一変する。その後の彼の中に、かつての日の面影をさがすことはむずかしい。

思い出の日
堀田さんは、生地——大分県下の栗村で心身ともに壮健な若者に育つと、戦時下のこと、志きし固く「予科練」へ。「天皇陛下ノ御為……」と敵の機銃を求めては空をかけた。

心強い長男
妻の京子さんは、昭和四年十一月十一日生まれて五十一歳。結婚したのはあの太平洋戦争が終った後で、二十三年の十月十六日。彼が二十歳で、彼女が十九歳のとき。青春の光輝く新生活へのスタートだった。定めた住居は、大牟田市新港町六番地、三川鉦社宅六十一棟。

思い出の日
堀田さんは、生地——大分県下の栗村で心身ともに壮健な若者に育つと、戦時下のこと、志きし固く「予科練」へ。「天皇陛下ノ御為……」と、敵の機銃を求めては空をかけた。